



技能五輪会場のインフォメーションで



会場案内をする通訳ボランティア



アビリンピック会場のインフォメーションで



競技終了後の清掃作業



アビリンピック関係者と談笑する通訳ボランティア

おもてなし

大会を支える大きな力となったのは県民の皆さん。ボランティアをはじめ、地元の児童・生徒の心温まる応援やおもてなしが、大会を盛り上げ、より一層魅力あるものにした。

【大会ボランティア】

学生や一般の方約2,000人が会場案内や介助、通訳などに活躍し、大会運営の大きな力となった。

【田方農高、沼津・東部両養護学校=花づくり】

3つの学校が共同で育てた約7,000鉢のマリーゴールドが両競技会場を飾った。



田方農高生、沼津・東部両養護学校生と一緒に種まき



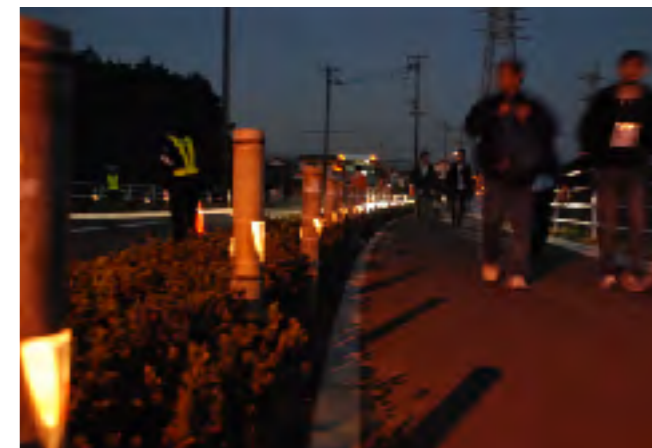
技能五輪会場の花モニュメント

【県立沼津技術専門校=竹灯籠づくり】

「かぐや姫灯路(とうろ)」と名付けられた門池会場の進入通路に設置された120本の竹灯籠を製作した。



沼津商工会議所や企業との協働で進められた製作



かぐや姫灯路(とうろ)で幻想的な雰囲気

【日本建築専門学校=シンボルモニュメントづくり】

建築家隈研吾氏の監修の下約半年間かけて、ジャパンスキルズビレッジに設置されたシンボルモニュメントを製作した。



木造建築のエキスパートを目指す6人を中心にデザインから製作までを手掛けた



完成したシンボルモニュメント「入和組」

【沼津工業高等専門学校=ブース出展やオープンキャンパス】

会場となった同校では、学生グループが門池おもてなし広場で「ものづくりブース」出展を行った。また、大会の同時開催行事として、「オープンキャンパス」を開催し、学科展示、ものづくり体験などを行った。



高専機構や全国の高専(宮城高専、豊田高専など)も参加した



子どもたちが真剣に取り組んだものづくり体験

【沼津市内の小・中学校=1校1国サポート】

1つの学校が技能五輪に参加する1つの国を応援する取り組みで交流を図った。開幕直前の交流会では約1,200人の選手・関係者が44校を訪れ、大会では総勢約11,000人の小・中学生が見学を訪れた。



フィンランド選手団と交流する沼津市立開北小の児童



オランダ選手団の歓迎集会をする沼津市立金岡小の児童

【静岡市内の小・中・特別支援学校=静岡フレンドシッププログラム】

アビリンピックの選手・関係者と市内17校、約9,000人の児童・生徒が交流を図った。事前に、応援する国について学習し、選手・関係者が学校を訪問する交流会を開催した。会場にブースも出展した。



オーストリア選手団の来校を歓迎する静岡市立長田西小の児童



インド選手団と交流する静岡市立富士見小の児童